

平成23年 第2回江田島市議会定例会一般質問〔3月〕

質問者	質問事項	質問要旨	答弁者
<p>1 大石 秀昭</p>	<p>(1) 活力あるまちづくりへの取り組みについて</p>	<p>市長の記者会見の記事が2月25日の新聞紙上に載りましたが、「サービス維持欠かせぬ」という記事の中で、4月から市営フェリーは廃止される方針である。島民の生活を左右する航路に関し、「将来は他の航路と統合など、サービスを落とす以外生きる道はない」と述べているが、地域特性をいかした活力あるまちづくりを目指すには、低料金で高速化、快適性を利用者に提供する等、海上交通の更なる充実に努める必要があると思います。</p> <p>市長は、広島市への通勤・通学圏として海上交通を向上させ、また高めることにより活力あるまちづくりを推進する気持ちが本当におありなのかお伺いします。</p>	<p>市長</p>
	<p>(2) 子ども議会での答弁について</p>	<p>市長は子ども議会で「率直に意見を聞くことができよかつたと思う。これからもいろんな場面を通じて皆様の気持ちを聞かせて頂きたい。」と感想を述べておられますが、本当にそのように思われていたのでしょうか？</p> <p>子ども達のパネル等を使った真剣な質問に対し、答弁は教科書を読むのと同じで、二言目には「金がない」という答え。これでは子ども達の夢もふっとんでしまうのでは？私は、田中市長の現在の市政運営は、将来、江田島市の歴史や自然・文化を守り、より良い環境を引き継いで頂かなければならない子どもからの預りものではないかと思っております。もう少し未来を見据えた視点に立った答弁をすべきであったと考えるが、市長の所見を伺う。</p>	<p>市長</p>
<p>2 沖元 大洋</p>	<p>(1) 江田島市が保有している普通財産と廃止施設の維持・管理等について</p>	<p>(1) 校舎、園舎で施設が7ヶ所ありますが、今後どのように対応していくのか。</p> <p>(2) 校舎、園舎で貸付中の施設が4ヶ所あるが、貸付けは有料なのか。また無料で貸付けているのか。</p> <p>(3) 4町が合併した時に持ち寄った普通財産と能美町にある基金財産ですが、売却をして財政の足しにしてはと思うが。</p> <p>(4) 旧4町が開発分譲して売れ残っている44区画については、どのような販売方法を目指しているのか。</p>	<p>市長</p>
	<p>(2) 環境改善策について</p>	<p>近代化の進んでいる昨今の市町ですが、平成の時代から取り残されたかのような地区（大柿町柿浦171番地、楠田地区）があるが、今後の環境改善策について伺う。</p> <p>(1) 楠田住宅耐用年数も80%以上経過しており、外見も汚く、見栄えとても悪いし、建替えの時期ではないのか。</p> <p>(2) 家賃の滞納率は、どれくらいになっているか。</p> <p>(3) 楠田住宅に往・復・する進入路ですが、整備する考えはあるのか。</p> <p>車が一台通ったら人間も通れない。また道路には至る所に大きな陥没している箇所があり、大変危険である。</p> <p>(4) 潮間は悪臭を発生して、ごみ捨て場と化している。なぜ改善しないのか。</p>	<p>市長</p>
<p>3 林 久光</p>	<p>オリーブ振興計画について</p>	<p>企業参入3社7ヘクタール、一般市民130名4ヘクタール、市の呼びかけでオリーブ振興がよいよスタートしました。現在3ヵ年程度の漠然とした計画しかありませんが、次の点についてお伺いします。</p> <p>(1) 10年後、20年後の全体事業構想を描いた長期計画の策定。</p> <p>(2) 栽培技術指導態勢と自家用オリーブの加工について</p> <p>(3) 苗木導入補助続行計画と耕作放棄地対策の具体について</p> <p>(4) 商品開発、販路、直営販売等、将来的展望。</p>	<p>市長</p>

質問者	質問事項	質問要旨	答弁者
4 山本 一也	(1) 地域活性化への取り組みについて	<p>本市の都市像である「自然との共存・都市との交流による『海生交流都市』江田島」の実現に向けた施策の一環として、オリーブの振興が進められています。本市は歴史的に漁業・農業を主とした営みによりなりたってきた地域であり、今般その根幹をなす農業の振興策としてのオリーブ発祥の地小豆島・牛窓を視察研修し、その思いを大きくしているところです。</p> <p>日本におけるオリーブの歴史は、古くは文久年間とされていますが、小豆島等に定着したのは百年そこそこのようであります。本市の取り組み次第では、先進地を凌ぐことも可能ではないかと考えられます。そのためには、本市のあらゆる自然環境と歴史風土や文化を最大限活かした、市民こぞの思の長い取り組みとなるような施策を進めていくことが大事だと思います。本市の将来像を描く上での現状把握とその課題整理等を併せて、市長の考えをお聞かせください。</p>	市長
	(2) 職員研修の成果等について	<p>合併当初から、江田島市の主役は人であり、江田島市は人々の豊かな幸せな活動の舞台であるとの考えのもと、その舞台づくりに携わる市職員の育成は大変重要であることから、職員研修の推進を図るようお願いしてきたところですが、現時点での研修成果と課題、また今後の充実策について考えを伺う。</p>	市長
	(3) 大規模災害対策について	<p>大規模災害発生直後には、多量の通信が同時に特定地域に集中し、通信困難な状況が発生する。このような状況下では救急出動要請などの緊急通報に支障をきたし被災地の状況把握が遅れ、適切な初動対策ができず、被害の拡大につながる危険性がある。</p> <p>江田島市では、大規模災害発生時の高齢者や障害者等、社会的弱者の緊急避難及び救急活動について、どのように考えているのか。</p> <p>また、事故後の公的補償制度（国、県含めた）の拡充を求めるものであるが、どのように考えているのか。</p>	市長
5 片平 司	(1) 協働のまちづくりについて	<p>金融危機による大不況の到来により、弱者が生活しづらい社会となっていますが、一方ではこうした不況に負けることなく助け合い、支え合って生きていこうとする健全な動きも感じています。</p> <p>市民と行政との協働のまちづくりは、平成21年度に各地域に職員が配置され予算も計上されていますが、全市的に動きが感じられません。</p> <p>取り組み状況に地域格差があり、行政の均等化に疑問の声が届いています。</p> <p>協働のまちづくりは、少子高齢化の進行や孤立化が進む中で安心して暮らし、子どもを育てていくことができる江田島市をつくる確かな力となります。</p> <p>行政の積極的な支援があつてこそその住民参加であり、なにより行政と市民の信頼関係の上に成り立つと考えます。</p> <p>現在の進行状況について答弁を求めます。</p>	市長
	(2) 安全対策について	<p>新聞報道もされましたが、1月末に能美中学校の裏道で転落死亡事故が起きました。事故後転落防止柵等の安全対策を求めましたが、街灯設置のみで、一番必要とする転落防止柵はされていません。市民の安全を求める声に応えていないと思うが、必要でない判断されたのであればその理由を、また合併後6年すぎ7年目になりますが、江田島市における危険箇所の把握はどのようになっているのか答弁を求めます。</p>	市長
	(3) 乳幼児等医療無料化制度について	<p>広島県内の自治体が行っている乳幼児等医療費助成制度は三次市、世羅町、神石高原町が入・通院ともに中学校卒業までの制度となっています。</p> <p>江田島市の乳幼児等医療費助成制度は小学校3年生までで一部負担金がある制度です。</p> <p>制度の制定当初は、江田島市の独自の進んだ取り組みでしたが、現在では後れた制度になっています。子育てしやすい江田島市と言われるよう、少子化の改善・定住対策へのサポート面からも中学校卒業まで乳幼児等医療費助成制度を拡充すべきと思うが、市長の考えを伺う。</p>	市長

質問者	質問事項	質問要旨	答弁者
6 胡子 雅信	持続可能な江田島市のために	<p>(1) 海上交通に対する方針 県新規事業「新たな生活航路対策事業」について具体的な協議はどうか。また、政府が示した交通基本法では、生活に不可欠な道路や交通網を整備することが方針として示されています。当市は半島振興法に基づく半島地域に指定されているが、半島の先端地域における海上交通に対する市の考えはどうか。</p> <p>(2) 交流のまちづくり 県が提案し実行している「瀬戸内 海の道構想」における江田島市の取り組みはどうか。また、昨年9月に発足した江田島PR隊の活動状況及び来年度の新規事業として掲げている県外へ情報を発信する江田島ファンのネットワークづくりにどう取り組むのか。 江田島市・呉市・宮島の3地域の英語・韓国語・中国語（簡体字と繁体字）のパンフレットが宇品港に置かれている。船を利用した観光ルートの一環ですが、外国人旅行者の対応はどう考えているか。</p> <p>(3) オリーブ構想を江田島ブランドとしてどう活かすか。 来年度より農地造成を開始し、オリーブの苗木配布活動によって市民への広報活動が進んでいる。今後、オリーブ振興協議会を立ち上げることになりませんが、新規のオリーブや従来からあるカキなどを含めて江田島ブランドを広めるために市としてどうバックアップしていこうと考えているか。</p>	市長
7 山本 秀男	(1) 新市建設計画の進捗状況等について	<p>平成16年に合併し「自然との共生・都市との交流による海生交流都市」をスローガンに、住みやすい地域づくり、多彩な交流を進める地域づくり、美しい地域づくりをテーマとして①教育文化の充実、②産業・観光の振興、③保健・医療・福祉の充実、④生活環境の整備、⑤都市基盤の整備、⑥連携交流の促進、の6つの基本方針を定め合併したが、住みやすくなっているか疑問に感じるところである。</p> <p>6つの項目ごとに達成度、進捗状況など、また住民の満足度など検証する時期と考えられるが、市長の所見をお伺いします。</p>	市長
8 野崎 剛睦	海上ロッジ建替えプロジェクト	<p>わが国は、少子高齢化社会に入り、社会保障費等が増え、国と地方を併せた借金は900兆円に膨れ上がり、国政はねじれ状態で明るいきざしが見えてきていません。</p> <p>本市は、行財政改革を進める道程のなかで23年度の当初予算案は、引き続き緊縮予算編成がうかがえ、市債（借金）残高の減少と基金を取り崩さない予算は、ある一面からは評価できます。しかし、このたびの人口調査にあらわれていますが、江田島市は、県内14市で最も人口減少率が高く、5年間で3千人余り減少して市勢が衰退してきています。</p> <p>市の衰退に歯止めをかけるために、本市の観光資源を活用する身の丈に合った振興策が必要と考えます。市内で唯一まとまった宿泊施設である海上ロッジは、耐用年数も経過しており、設計・設備が現在のニーズにマッチしていないので建替えの時機（期）に来ているのではないのでしょうか。</p> <p>ついては、建替えの基本構想計画や過疎対策事業債の利用等、あらゆる課題を検討する部門を設けて、海上ロッジ建替えの可能性を見出せないものかお伺いします。</p>	市長